

令和 6 年度富津市民委員会 報 告 書

令和 6 年 9 月
富 津 市

目 次

1	令和6年度富津市民委員会の概要	1
2	令和6年度富津市民委員会討議結果	4
	令和6年度第1回富津市民委員会 グループ1 討議結果	6
	令和6年度第1回富津市民委員会 グループ2 討議結果	11
	令和6年度第2回富津市民委員会 グループ1 討議結果	23
	令和6年度第2回富津市民委員会 グループ2 討議結果	28
	○委員名簿	40

1 令和6年度富津市民委員会の概要

(1) 趣旨

2025年度以降の富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「次期総合戦略」という。）を策定するに当たり、次期総合戦略も引き続き、市民とともに創り上げ、実行していくことから、幅広い市民からの意見を反映させるため、富津市民委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(2) 討議事項

次期総合戦略策定に向けて、現在の富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「現総合戦略」という。）に定めている次の事項について、討議する。

- 各基本目標の数値目標
- 基本的な施策の方向
- 課題
- 地域・民間ができること
- 市民ができること

(3) 組織

委員会は、富津市の住民基本台帳登載者のうち15歳以上の方の中から、若年層に傾斜配分し、無作為抽出により選出された方で、委員会への参加希望をした方の中から抽選により選出された富津市民委員会委員（以下「委員」という。）をもって組織する。

(4) 役割

○委員

現総合戦略の進捗状況を踏まえ、(2)に掲げる事項について討議する。

○コーディネーター（討議の進行役：富津市創生会議委員）

委員に対し、論点を提示するなど、討議の円滑な進行を行う。

○事務局（委員会全体の運営：企画課）

委員会全体の運営を担うとともに、委員会での討議結果を報告書として取りまとめ、富津市創生会議へ報告するとともに、次期総合戦略策定に向けての素案作り及び富津市創生会議における議論において参考にする。

(5) 開催日

○第1回富津市民委員会 令和6年5月12日（日）

○第2回富津市民委員会 令和6年5月25日（土）

(6) 討議の流れ

委員を2つのグループに分け、コーディネーターからの論点の提示をもとに各グループで現総合戦略の基本目標ごとに討議を行う。

	グループ1	グループ2
第1回	基本目標1 子どもの笑顔があふれるまちへ	基本目標2 自分のくらす地域を好きになる
第2回	基本目標3 くらしやすく、移住しやすい環境づくり	基本目標4 市の産業、仕事を創る

2 令和6年度富津市民委員会討議結果

第1回富津市民委員会	グループ1 討議結果.....	6
第1回富津市民委員会	グループ2 討議結果.....	11
第2回富津市民委員会	グループ1 討議結果.....	23
第2回富津市民委員会	グループ2 討議結果.....	28

令和6年度第1回富津市民委員会 グループ1 討議結果

1 開催日時等

開催日時	令和6年5月12日（日） 午後1時50分～4時10分
場 所	富津市役所本庁舎1階大会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標1
出席者	富津市民委員会委員6名 （コーディネーター）青木 和彦 （事務局）大野副主査

2 討議事項

総合戦略の基本目標1（子どもの笑顔があふれるまちへ）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

（1） 基本的な施策の方向① 安心して出産、子育てできる環境を整える

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・富津市人口ビジョン8ページにある「子育てしやすい地域になるために必要なこと」では、「働く場の確保による経済的な安定」を多くの人が望んでいるが、施策の方向①では特に触れられていないので、内容を合わせた方が良い。
- ・働く場を確保し、夫婦で働きやすい環境を作る。経済的に安定することができるよう経済的支援が必要。
- ・「安心して出産、子育てできる環境を整える」の語尾が固いイメージなので、例えば、「安心して出産、子育てしやすいまちへ」のように、柔らかくした方が不安を取り除くことができ、安心感に繋がると思う。
- ・公園や子どもが集まる遊び場周辺や歩道などのハード面の整備が必要だと思う。また、草が生い茂っていて、管理者の連絡先が記載された看板などもないので、連絡できないことがある。
- ・子育て世帯への情報提供やカナリエの空き状況など LINE やインターネットなどデジタル技術をもっと活用できると良い。
- ・課題に「市内に産婦人科がなく、小児科も少ない」とあるが、市としては、どうしても病院を誘致したいと考えているのか、誘致することは難しいので、近隣市の施設の利用を促し、例えば、「夜中でも、いつでも使えるタクシー券」などでサポートしていきたいと考えるのか、市としてどちらの方向で進めているのか。

きたいのか知りたい。 ・子どもを預ける施設やベビーシッターなどのサービスの充実。
地域・民間ができること
・安心して出産、子育てしやすいまちになるために、どのような地域ボランティアやNPO団体があるかをまとめ、連絡先を記載し、どういう活動をしているかを誰でも知ることができるように、積極的に関わっていけるようなきっかけ作りの場にしたい。 ・地域で定期的に行っている行事や活動などを誰でも見て確認できるようにすれば、参加しやすく子ども達の参加者増加につながると思う。
市民ができること
・子どもは、個人で育てるものではなく、地域で育てるという意識が大切だと思う。

(2) 基本的な施策の方向② のびのび学ぶ教育環境を整える

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）
・「育った地域に愛着を持ち～」とあるが、富津市で生まれ育った方だけでなく、生まれた場所は違うが、富津市に移住してきた子どももいるかもしれない。誰もが含まれるような書き方に変えた方が良いと思う。 ・「心身ともに健康で～」とあるが、一人ひとりのお子さんの容態は全て違い、悪いところが無く元気というのが健康だとすると、それぞれ違うと思う。「それぞれのお子さんが健やかに～」などと、子どもがいる親の誰が読んでも素直に納得できるような分かりやすい文面が良いと思う。 ・課題にある、地域の強みや特性を活かした教育を提供したいのであれば、アンケート結果にもあったように、富津市の強みである「豊かな自然」を活かしていくべき。 ・基本的な施策の方向②とその課題にある「のびのび学ぶ～」「さらなる」「より良い」とは、どういう意図でつけられたのか。抽象的な語句が多いので、より具体的にすべき。 ・「確かな学力を身につけた～」というのも、偏差値的なイメージが強いので、「子どもの好奇心を育て、自主性や多様性を身につけた子ども」などの方が良いのではないか。 ・「確かな学力を～」とあるが、子ども達に学力などはいらなくて、自主自立の方が大切だと思う。 ・地域の特色を活かしたいのであれば、富津市の強みである大自然の中で学ぶからこそ、育まれる寛容性のようなものが含まれると良いと思う。 ・課題に「教育のさらなる充実」とあるが、学校の先生も一生懸命やっていますが、子どもたちは、多くが塾に通っていて、中学生になると、ほぼ

みんな行かなきゃいけないみたいな雰囲気になっていているようです。青堀地区は、学習塾や英語の塾があるが、天羽地区は塾がないという話を聞いたことがある。以前人に聞いた話で、学校で授業時間の前後に0時間目と7時間目というのがあったそうで、これを、再雇用の先生方や退職された先生方にやっていただいたら、塾に代わりにもなり、地域差をなくし、平等な環境を提供することができると思う。

- ・子供のうちから健康意識を養っていくという意味合いで、「子供のうちから健康意識を高める」という課題で挙げて、事業を入れてもよいのではないかな。
- ・課題に、「地域の強みや特性を活かした教育～」とあるが、富津市は自然に近い環境なので、自然を活かした教育を増やしていけるといいと思う。
- ・地方では、第1次産業は非常に大事だと思う。それらの仕事と直に接する機会や地域と交流することで、子どもの職への関心が広がり、市への愛着につながると思う。
- ・地域ごとにイベントなどの情報発信していくことはもちろん大事だが、市で一元的に管理していけば、市民がよりスムーズに情報を受け取ることができると思う。その際、デジタル技術を活用して進めていけばよいと思う。
- ・まちの先生をもっと活用し、子ども達が何を知りたいか、学びたいかをというのを吸い上げる場があってもいいのかなと思う。学校で行うのが一番だと思うが、子供たちが何を学びたいと思っているか望んでいることをアンケートなどで、直接聞くのが一番良いと思う。また、直接の指導が難しいときは、オンラインでもいいしYouTubeによる動画配信もあると良い。
- ・「子どものうちから健康意識を持つ」「自然を活かした教育を増やす」「富津市のメインである第1次産業で子どもと地域との交流の場を増やす」の3点を課題として追加すべき。これらが富津市への愛着に繋がると思う。
- ・基本的な施策の方向②「大自然の中で学ぶことで、子どもの好奇心を育て、教育環境の地域格差をなくし、多様な子どもを育てる」などはいかがか。

地域・民間ができること

- ・地域の行事や祭礼などに、その地域の子どもだけでなく広域的にオープンにしていく仕組みを考えていく。少子高齢化が進む中で、「オールふつつ」で進めていかなければならないと思う。

市民ができること

- ・「育った地域に愛着を持ち～」というところで、地域の伝統的な行事などに子ども達をもっと受け入れ、伝承していったら良いと思う。季節ごと、地域ごとにどんな行事があって、どのような流れで行っているのか。全てのことに意味があることなどを学べる機会になると思う。
- ・今までは、地域の行事もその地域の子どもだけを受け入れていたと思うが、少子化もあり継続性がないので、広域的に子どもを受け入れた方が良い。参加者が減ってしまうより、子どもの受け入れ範囲を広げた方が良いと思う。

(3) 基本的な施策の方向③ 出会う機会を増やし、結婚の希望をかなえる

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・基本的な施策の方向③にある「～結婚の希望をかなえる」というのは、今の若者には重いと思う。
- ・多様化している今の時代、結婚の希望は一つの価値観の問題なので、押し付けられるものではない。
- ・前回策定した4年前とは、社会情勢等が大きく変化しているので、相当環境が変わっていて、基本的な施策の方向③は、基本目標の「子どもの笑顔があふれるまちへ」には、結びつかないと思う。③は、今の時代に合わないので、不要だと思う。
- ・他市にアピールするなら、結婚というよりも、事実婚や同性婚などの制度的な許容範囲を広げたり、LGBT の人でも暮らしやすい、ダイバーシティ的な考え方がもう少し方策の中に入ってくると富津市への転入のアピールになると思う。市が受け入れることから始まり、地域としても、そのような価値観を持った人を受け入れる体制を作る。周りの人が移住してくればその仲間たちにも広がっていくと思う。認める環境づくりが必要になる。
- ・結婚しなければ受けられない支援や制度があると思うが、事実婚、同性婚などの同じ権利を与える。
- ・すぐに結婚ではなく、趣味を通して交友関係を深めるイベントなどを行い、交流の機会を増やし、マッチングの機会を増やす。
- ・現代の若者は、マッチングアプリで出会いを求めている。共通の趣味の仲間を見つける交流アプリを作り、出会いの場として有効だと思う。
- ・教育機関の誘致をしてはどうか。
- ・例えば、大学生や学生などの自由に動ける世代を対象にしたイベントを行い、まずは興味をもってもらおう。SNS を使った PR をしてみてもどうか。

地域・民間ができること

- ・市の行事やイベント、趣味のイベントなどの出会いの場を創出する。
- ・大学生などを対象にしたイベントを計画し、SNS で PR する。
- ・駅伝チームの合宿や学生の受け入れ態勢を整える。
- ・富津市を知ってもらうために、市内で学生のホームステイの受け入れ、市内のイベントや行事に参加してもらう。

市民ができること

- ・結婚というよりも、事実婚や同性婚、LGBT の人でも暮らしやすい、多様な価値観を持った人を受け入れ、認める環境づくり。

(4) 数値目標 子育てしやすいと感じる世帯の割合（市民意識調査）

数値目標

- ・アンケート結果を見ると、子育てしやすいと感じる世帯の割合は、前回調査と比較すると 0.3%増加したとあるが、これは、取組の成果が出ていない結果だと思うので、数値目標は下げた方がよい。
- ・最終目標として「子育てしやすいと感じる世帯の割合」が 50%では低いと思うが、現実的に考えると、現在の数値目標の達成は難しいと思う。
- ・目標値にどう言った意味を持たせるか、その根拠を具体的に示した方がよいと思う。

令和6年度第1回富津市民委員会 グループ2 討議結果

1 開催日時等

開催日時	令和6年5月12日（日） 午後1時50分～4時00分
場 所	富津市役所本庁舎2階 第1委員会室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標2
出席者	富津市民委員会委員8名 （コーディネーター）岡田 亮介 （事務局）若松副主査

2 討議事項

総合戦略の基本目標2（自分のくらす地域を好きになる）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

- （1） 基本的な施策の方向① 地域の魅力をより多くの人に伝える

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・基本目標2「自分のくらす地域を好きになる」というところからスタートして、それを具体的な施策としてどうもっていくかというところで、まず人に伝えるという話が方向①で、方向②で地域力を高めると、これらはいずれも非常に大事なことだと思っている。
ただ、方向①と方向②は、総合戦略に載せる際は、逆の方がよいのではないかと思う。まず地域力をしっかりと高め、それをしっかりとやりつつ、発信していく。順番的にはその方がいいのかなと思っている。
- ・富津市みらい構想では、人口をまずどうするかという大きなテーマがある。またその中では、移住という話が大きな方向性として一つ出てきている。だから、一つの政策として、移住が地域そのものを高めていくということと、人口ビジョンをどうするかということが非常に重要な課題として今回取り上げられているので、その部分の具体的な政策が重要である。だから、そのところをしっかりと念頭に置いた上で、この基本目標2でどういうことをやっていくかということを実体化していかないと、おそらく一貫性がなくなってしまう。
- ・人に伝えるという情報発信は、今の世の中ですごく大事な話で、デジタル化をどういうふうにするかというのは、情報発信が非常に有効な手段であるので、その人に伝えるという話、表現はともかく、引き続き是とした方がいいのかな

と思う。

- 今の若い方はSNS等の発信で情報を見ることがとても多いので、まず、「うちの市、こんなことやっているよ」という、本当に自慢できるところを多く発信するところから始めるのが重要である。
- 自然がいいという意見がたくさん出ているが、それだけだと、単に「いいよね」で終わってしまうが、自然のすごくいいところと同じようにまちの利便性、便利な部分をもっと押し出していかないと、なかなか富津市に定住しようとは思わないのではないかなと思う。神奈川に住み始めた方が知り合いにいて、子どもがいる方だと、小学校等のことを調べて、更にどこにしようかと選んでいるので、子どもを持つ世帯の方が少しでも今よりもちょっと便利になるような情報、「富津市はこういうふうになりましたよ、変わってきましたよ」という情報を更に発信できると、「どんどん良くなっているんだ。じゃあ行ってみよう」と思うのかなと思う。
- 移住という話題からこれまでの流れでいくと、選ばれるまちにならなきゃ駄目だという話。おそらく、移住する際は、誰しも比較検討される。「ここがいいな」と選ばれるまちというのは、一つは政策的に優秀かどうかという話と、そもそも知られているかどうかという話の両方がある。
- 富津市に住んでいる我々が、ここの良いところを少しずつ掘り起こして、認めて、PRすることが必要かなと感じた。
- 富津市に住んでいても意外と魅力を知らない、あるいは、住んでいるからこそ逆に知らないみたいなこともあるのかもしれない。視点を変えると、何か面白いことが出てくるのかなと思う。
- 市外から来る方の生活の価値観は、富津市に住んでいる私達の価値観とも全く違うので、そこら辺を意識して移住施策等をやっていく必要がある。そのことは、私たち住民も意識を持っていなければならない。富津市に来る方は、いろいろなことを調べて求めてくるから、ただ単に自然がよいだけじゃなく、いろいろなことを発信していく必要がある。
- 他の方とは逆の意見として、実は魅力を多くの人に伝える必要はないとも思われる。ここにいる皆さんの意見を否定するわけではないが、結構有名どころで言えば鋸山とかマザー牧場とか、桜が綺麗な道だともみじロード、志駒の方とか、そういったものはもうフェイスブックやInstagramとかでハッシュタグですぐ検索できるし、富津が好きっていうグループもできている。

そういう意味では、写真等が好きな方がもう既に発信されているので、例えば市のホームページでは、補足する形の情報をアップしてはどうか。もみじロードを例にすれば、もみじロードに行く時期の交通情報、道の狭さ、駐車場の有無、飲食店やコンビニの情報等の補足の情報、不足しがちな情報である。

- 観光で市外の人たちが来てくれるのもいいと思うが、先ほど移住という問題があったが、例えば、年代別に何かメリットがないと、やはり移住してもらえな

いのではないかなと思う。年代ごとでないとな整体的にふわっとしてしまい、イメージが分からないので、子育て世代への魅力とか高齢者への魅力とかにした方がよい。例えば高齢者だったら、病院へのアクセスのしやすさに関する情報が必要なのではないかと思う。

- ここに書いてある課題は、地域に関する情報発信が不足しているという漠然とした課題なので、これは施策にはおそらく繋がらないと思う。もっとも、その部分の包括的な表現については、私は是とするが、行政施策に繋げるにはどうするかという詳細な分析は必要である。この情報発信ということを漠然と言うと、不特定多数に対する発信みたいになってくるので、おそらく方向性が定まらないと思う。だから、情報発信の何が不足しているか、例えば先ほど指摘があったように、市のホームページに載っていることはもういいんじゃないかという話である。過去30年以上にわたって10回以上引っ越しをして国内外に泊まってきた経験から比較して言うと、「ここを見ないと分からないよね」という情報発信が自治体からあると非常にありがたい。例えばお祭りの時期であれば、「この駐車場が無料です」とか、「今の混雑状況どうですか」という話。そこは、何か、どこかが取りまとめて出してくれるページがあると非常にありがたいし、そういう所に行こうか行くまいかという話になると、どのぐらい情報があるかが結局大事な話になるので、やはり情報発信という漠然としたワードじゃなくて、どんな人たちをターゲットにしているんだっけという視点の捉え方で、やるのが全然違ってくると思う。先ほど話に出てきた移住者であれば、若くてここに移住する人はいないと思われる一方、非常に過疎化しているのかなと思って私が地元に戻ってきたら、移住者がいる。お互い東京の何区にいたという話で繋がり、「意外とここ、移住者でもっているよね」というところがある。

その辺のところに対してどういう発信をするかというターゲティングをしっかりと考慮してって、この課題は、表現はこうだとしても、しっかり中身をリストアップした方がいいんじゃないかなと思う。

- デジタルの話で踏み込んでみると、駐車場でいえば、ここが無料だよというのでもいいが、今開いているかどうかが大事。「今は満車ですよ」みたいな情報がアプリ等で見えたりするとよい。
- 先ほど話に出た空き家情報についていえば、情報は地元にはあるが、ネットにアップしていないものは探すことはできない。しかし、ないという事はないと思う。今のは一つの例だが、発信する情報の分析をしっかりと、「この部分は行政でやらないといけない」というところをリストアップするのが大事なのかなと思う。
- お祭りや大きなイベントに関しての話でいえば、例えば神輿だと、担ぐ人が足りない一方で、移住者の中には、神輿を担ぎたいという人もいるのに、地元住民者、移住者のいずれも固定観念があり、地元の怖い人たちだけでやっているというイメージしかなく、「これは入ってくれないな」と思うくらいで、やって

くれる雰囲気がない。昔の人たちは、消防団等の関係で若い方に命令口調で「探してこい」というような感じ。でもそうじゃなくて、例えば、SNS等のデジタル技術を活用し、「担ぎ手を募集しています」と発信するのもありかと思う。また、地元だと、新しく地域に入ってもらった企業の従業員の人たちに、お手伝いというか神輿の担ぎ手としてお願いしに行くことがあるが、区費も払って勝手にその日だけ応援しに来いというのもなかなか難しいので、入りたいという方に適切に情報発信ができれば、「せっかく地元に住んでいるんだから参加したい」という人を取り込めると思う。

- ・子育て世代の人たちも、情報がこども会しかない。ただ、結構こども会が消滅しているところもあるので、そこが課題かなと思う。
- ・地元でありながら、特定のコミュニティに入らないと見られない、あるいは知ることができない情報が不足している。そこを仕切っている人と親しくなると急に輪に入れたり情報を得られるが、そうでないと情報が得られない。地域の情報が自由に見られたり、自由に参加できるような情報があると、途中からでも非常に入りやすくなるのかなと思うので、それができないことは課題である。
- ・先ほどの移住の話あるいは観光客でもいいが、それは富津市の中の話ではなくて、全国に対して発信しないといけない話なので、一市民だとなかなか発信できない。例えば、東京にアンテナショップを出すとか、その手の話になると、「市民で頑張ってください」と言ったってできない。そこは市の方で音頭を取って、例えば商工会とかも巻き込んで、皆で1回展示しようという話を持っていくなど、旗振りをやらないといけないと思う。
- ・一民間が何か宣伝しているというよりも、全部ではなくても市が関わってくれていると、情報を受け取る相手も安心感がある。
- ・空き家や空き地、荒れている農地等について言えば、いろいろな法律の規制はあるかもしれないが、使っていない先祖伝来の土地の情報等はなかなか出てこないで、市が窓口を設けて、「富津市にはこういう土地を用意していますよ」ということを行政がやれたらと思う。できなければ、市内の不動産屋さんと共に進めていけば移住問題の一つの解決策になるかなとも思う。市でもいろいろと難しいかもしれないが、人口減少を解消する、あるいは解消できなくてもスローダウンさせる方法ではあるかなと思う。
- ・市で何か事業をやる際は、専門職でなくたまにそこに配属された人がやらなければならないことがよくあるので、本来は市でやるべきことの一部を民間の専門組織や会社をお願いするのもよい。もっとも、民間は、基本的には利益が発生しなければお手伝いはしてくれないと思うので、委託なりの契約をして、民間の方の力をうまく借りることができれば良いと思う。

市と地域・民間との繋がりを作りことで、良い循環が生まれると思う。具体例で言うと、国道沿いの某工務店の看板宣伝なのだけれど、看板の下方には、「住

みやすいまち ふつつ」と書いてある。工務店、企業のコマーシャルであるが、そこはおそらく、市の政策・施策とリンクする。また例えば、市の中にある高校とかいろんな学校の教育の中で、自由な時間に何を教えてあげられるか、地域、地域組織、民間事業者とリンクをしたら、その中で教えてあげられることはあるはず。しかも、学校の生徒というのはすごく大事で、市の外からも来ている。だから、市内に住んでいる人たちではない人たちにも、その発信が繋がっていくというところがあるので、地域や民間ができることがあると思う。

- ・民間事業者も、自らが自分たちの職務を分析して、自分たちの地位や役割を見つけないこと自体が、その会社にとっても前進のステップになるので、本当は自らやらなければいけないのが原則であるが、同時に市からも促し、お互いがより高めていけるとよい。

地域・民間ができること

- ・総合戦略に載っている「具体的な取組と目標値」の表について、この3つの横割りの区切りではなくて、「行政のこの取組は、地域・民間・市民ができることのこれをカバーしているよね」ということが分かるように、整理することかなと思う。

地域・民間・市民ができることとしてリストアップしたことが、資料3に記載されている全体の体制の中にきちんと取り込めるよう、市が全ての旗振りをしなくてもいいから、地域・民間・市民がやることもきちんと市で掌握をして、自分の総合戦略の中に一定の位置付けをしていくのが適当であると思う。

- ・富津市内は、富津、大佐和、天羽と分かれていて、いろいろな役の長の方がいると思うが、やはり地域の代表は区長さんだと思う。その区長さんに、自分の地域のことについてSNS等を活用して、情報発信をしていけば良いと思う。何か地域の課題というだけのタイトルだけでも、こうした方がいいんじゃないかというコメントが入ってきそうな感じである。おそらく区長さんも何年かで必ず変わってしまうし、あまりにも莫大な情報量だと市の方が大変かなとは思いますが、区長さんを中心に地域の情報発信ができれば良いと思う。例えば、「山間部に空き家があるよ」という情報があっても、それに伴う申請だとかの情報は、個人でやっているとならずたどり着けない。だから、そういったところの連携が取ればよいと思う。

市民ができること

- ・第2期総合戦略13ページに載っている「市民ができること」の中にある、例えばSNSの話が2つ載っていたりするので、これは何の話ですかということになる。この中でも整理が必要なので、少し整理をしてリストアップしたらどうかと思う。
- ・視点は変わるかもしれないが、今大学によっては、アニメでいうキャラクターみたいなものがサークルにあって、いろんな市のイベントを活気付けるために、そのキャラクターが市の魅力を発信することを請け負うみたいな、そういうも

のがある。また、いろいろ調べたら、同じようなものが他の大学にもたくさんあって、今、大学生が、地域貢献というか、あわよくば自分がその地域を気に入ったら住みたいなのがちよっと流行っているようである。すごく頭のよい人や情報発信力のすごくある人たちがいて、機会があって、「例えば、私が住んでいるまちとかで、富津市を盛り上げてくださって言えば、やってくれるってことですか？」と聞いたら、「サークル活動なので、行ってみて、市の方とうまく連携がとれれば、それが自分たちの社会貢献にもなるし、もし具体的になったらまたお知らせください」と言われた。今の討議のテーマは「市民ができること」であるが、そういった大学生等の方たちに少し手伝ってもらって、各大学に「富津市を盛り上げてみませんか」みたいなのを募集する発想はありだと思う。そして、若い人がそのまま富津市にいてくれればなおよい。

- ・富津市では毎年、東大むら塾をやっている。あそこは東大だけじゃなくて、東大が音頭を取って全国の大学生が、例えば一昨年とかは福井大とか、いろんなところの大学生と一緒に参画して来る。大事なのは、情報を発信するだけじゃなくて、その人たちと実際に交流すること自体であり、それそのものが発信になる。そういうところと地元の人がきちんと交わってくれること自体がもう情報発信で、別にネットで何かを載せるとかチラシ配りだけが情報発信ではなくて、最後は、実際に交流するというのが、すごく意味がある。

- ・東大むら塾は、何年か前に、天神山の相川でやっていた。その時は東大生だけだった。田んぼで稲を作って販売して、それが東大村塾のスタートで、今はいろんな大学から集まって、湊、天神山、竹岡、環、金谷と、毎年各地区にグループが入って、各自で問題提起してやっている。最後にまとめたものを、市民会館で区長さんや市長も参加され、発表会をやっている。

私達区民も悪いのかもしれないが、せっかく来てくれて問題提起してくれたことを、もっと本当は取り込まなくちゃいけないと思う。

- ・富津市からも、色々な方が都内などの大学に行く。東大むら塾は、色々な大学の学生が来ているようだが、そのこと自体を、若い世代は知らないかもしれない。高校生とか中学生に、「こういうことをやっているよ」と、「こういう意見もあるよ」というのを発信した方がきっといいと思う。
- ・東大むら塾の大学生や君商の生徒たちのように頑張っている若い人たちがいて、「それをバックアップする地域の人たちがいるまちですよ」のような情報発信は大事である。そういうバックアップがあるというのが知られていくと、最初に選ばれるまちになってくると思う。そして、その関係性を継続していくと良いと思う。
- ・東大むら塾の方たちの意見を、地元に住む私達も本当は聞かなくちゃいけないと思う。私は、住んでいる地域の数人で会をやっていて、そこには移住してきた人が3、4人いて、その人たちとは2か月に1回位話をする機会があるが、田舎に住んでいる私達の発想ではつかない提案をしてくれる。それを実現でき

るかどうかは別の問題だが、田舎に来てくれた都会の人と考えを共有する機会があり大変参考になる。昔から地元に住んでいる我々が色々な決め事をする、大体方向性が決まってしまうが、移住してきた人たちと意見交換をして、違う考えを持った人から意見を聞く機会は、大変ありがたいことである。東大むら塾についても、学生さんの提案を取り入れられると、まちも変わってくるんじゃないかと思う。

- ・東大むら塾等で提案をした学生たちは、1年後に全然変わっていないとがっかりしてしまうと思う。だから、中核となるような、例えばNPO法人など、うまく取りもってくれるところがあると良いと思う。
- ・大学生の中で、地域に入っていった何かしたいという人は、実は割と多いと思う。ただ、何か提案したとしても、住民は、提案された話を聞いて終わりというのがほとんどであると思う。だから、「意見を取り入れたよ」とか、「次の年はこうなったよ」のような発信がされると、他のまちと差が出る。選ばれるまちという意味では、「受け入れる側は本気だよ」「バックアップやフィードバックがちゃんとするよ」というような情報発信のあり方を、他ではあまり見ないので、非常に面白いなと思った。

その他（体験談等）

- ・元々の私の地元は富津だが、仕事の都合で県内を動く中で、今回市民委員会の話があった際に、富津市のことを少し調べた時、自分は富津市にしながら富津市のことについてあまりに何も知らなかった。富津市で牡蠣の養殖が盛んで、東京の方まで出荷されていることも知らなかった。マンゴーを作り始めていて、ふるさと納税の返礼品としていることも知らなかった。
- ・子どもを産む世代の人たちが富津市に定着しないことについては、高齢者の方に対するケアをたくさんしても人口はやはり増えないと思うので、私も圧倒的に移住というのがキーポイントだと思う。テレビの特集等でもよく紹介されているが流山市の、10年以上かけて子育て支援に特化した政策、例えば、勤めているお母さん方が駅まで子どもを連れて行くと、そこから各保育園まで連れて行ってくれるサービスがあるようで、とてもびっくりした。富津市で真似ができるわけではないが、人口が増えている他自治体のことを調べながら、できることからだとは思う。子どもの数がどんどん減って、学校も小規模になってきて、統廃合で遠くまで通わなきゃいけない子が出たり、中学生になったときに部活の数が少ないからやりたい部活ができなかったりとか、それはもう仕方ないかなとは思いますが、そういったことがなくなるよう、将来的に子どもが増えるような、もしくは、もうこれ以上減らさない形をとらないと、富津市に移住しようという気も起きないのではないかと思う。
- ・私達の知らないところで、土地や空き家、古民家を求めている人が結構いる。
- ・富津市は、居心地がいいので、頑張りたいと思っている若者たちがたくさんいると思うので、そういう人たちが住みやすくなるといいかなと思う。

- ・東大むら塾の存在をもっとアピールしてあげるとよいと思う。

(2) 基本的な施策の方向② 自慢できる地域力を高める

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・自慢できる地域力の内容としてはこれでいいと思う。

また、こんなに良い市ですよというのは、それを伝えられるサイトを作ってほしいと思う。市民が自由に書き込めるサイト、あるいはそれを区長さん等にも手伝ってもら。富津市のホームページにも外部サイトのリンクを貼っているが、浅すぎるというか、単に情報を羅列しているだけの掲示板みたいな感じ。
- ・区長さんが情報発信をするという点について、市では次期総合戦略の基本方針に「デジタル技術の活用」を加えたとのことだが、今の区長さんたちのように上に立っている人たちって、デジタルに慣れていない人たちである。一方で、若い人はデジタルに慣れている。そういう若い人が区長さんたちのような、上に立つ人に対してデジタルについて教える、そういうサークルや研修会を創れば、それがコミュニケーションにもなる。それが、地域の活性化、自慢できる地域力になる。
- ・基本的な施策の方向①はインテリジェンスの話だったが、基本的な施策の方向②でいう地域力ってというのは、私は言葉的にはすごくいいなと思っていて、地域力ってどちらかというともっと人間の話なので、海があるとか山があるとか工場があるとかそういう話ではなくて、もっと人間的な魅力の話を言っている。その一つは、愛着であったり誇りであったりする。その愛着、人はどんなことで愛着を感じるかということについては、私がよく使う言葉でヒューマンネットワークという言葉を使うのだけれど、ポイントは3つあって、一つ目は、ヒューマンネットワークという地域の繋がりがどうか、二つ目は、そこに自分の自己実現をしていくビジョンが持てるかどうか、三つ目は、その場所で生きていく生きがい、モチベーションを持てるかどうかということ。愛着を因数分解すると、そんなことなんだろうなと思う。だから、討議の前半で話したアクティビティに関わるようなことというのが、ここの地域力ということなんだろうなと思う。
- ・「地域力を高める」の「高める」という言葉について、現状にあるものを高めていくって何を意味するだけなのか、それとも、今あるものだけでなく、自分の意志というか、インテンションとして「これを高めていくことにしよう。今はないけどこれをしよう」という話をする、そこはクリエイティブな話になってくるので、その部分を含めた「高める」という意味だったら、そのまま「高める」でもよいと思うが、例えば創造の創、「創る」でもいいかなとも思う。今あるもののバージョンアップだけじゃないとは思っている。

また、資料4の補足資料が3ページにあるアンケート「市民が幸せを感じられるまち」、このアンケート結果そのものが、私が定義した地域力の部分について

てで、良い環境とかコミュニケーションとか家族との時間といったものが上位を占めているというのは、人間関係の話に繋がっていくことなので、この部分をバージョンアップできるような施策を講じていくのが大切かなと思う。

- ・私は、「愛着や誇りのある地域」とは、ブランド力だと思っている。ブランド力のある地域というのは、「富津市といえば〇〇」と言われるような地域だと思う。例えば、横浜の人に出身地を聞くと、神奈川ではなく横浜と答える人が多い。これは、自分たちの地元プライドやブランド力を感じているからじゃないかなと思う。今の富津市がどうかと考えると、「チーバくんのおへそのところ」だという答えが精一杯かなと思う。

具体的にどんなブランド力があるかと考えたとき、5点ほど考えた。一つ目、日本一とか日本有数のものがあること。具体的には例えば甲子園の優勝校がある地域だとか、日本有数の〇〇の産地ですとか、そういうものがあるかなと思う。皆さんも、魚沼産って聞いたときに、コシヒカリとか新潟県ブランド米、ご飯美味しそうといったようなイメージが、即座に思いつくんじゃないかなと思う。二つ目、有名人や歴史上の人物の出身地やゆかりの地等があること。三つ目、絶景・名所や重要文化財等の歴史的建造物があること、富津市で言えば具体的には鋸山とかマザー牧場がこれに当たるのかなと思う。四つ目、大河ドラマ等のロケ地。五つ目、まちを挙げての大きなイベントや歴史的なお祭りがあること。例えば高知の阿波おどりや長岡の花火大会。例えば、木更津のやっさいもっさいがこれに当たるのかなと思う。

以上5点を考えたときに、実現性についても少し考えた。一つ目の、日本一、日本有数の創出。一般的には時間もお金もかかるものであり、難易度としては高いと考える。二つ目の、歴史上の人物のゆかりの地。これも後付けで理由を付けられるものではないので、難易度としては高いのかなと考えている。三つ目の、絶景や歴史的建造物。富津市には数多くあると思うので、難易度は中かなと考えている。四つ目、大河ドラマ等のロケ地。これは、テレビ局で何を制作するか運なので、難易度は高いと思う。最後に五つ目、大きなイベントやお祭り。これは、時間もお金もかかるがスモールスタートが可能だろうと考えるので、難易度は中から高かなと思う。

それを踏まえて課題を見ると、先ほどからSNSというキーワードが結構出ていて、実際に市のSNSを見てみると、更新頻度が低くイベントの事後報告が多いと感じた。

それから、自慢できる地域力というところで、先ほど前半の討議でも発言があったとおり、自分の地域に何があるか、実はよく分かっていなかったり、若しくは当たり前すぎて、その良さや価値観を感じられていないという可能性があるんじゃないかなと思った。

- ・課題設定は、全部これでいいと思う。しかし、この中で、「転入者と地域との関係が希薄であることから」の、「転入者」と書いてある時点で、文章的には引い

てしまうと思う。「転入者」だと、転入する側としては、なんだか冷たく感じると思う。全く知らない所に入っていくとなると、その時点で分け隔てがあるような感じがしてしまう。新しく来る人は、何となくゆっくり入っていく感じがいいのかなと思う。

元々自分は十代の時に東京から富津市に引っ越してきたが、その時にやはり、先ほど話に出てきた祭りの件だが、長くそこに住んでいる人は地元愛が強すぎて仲間に入れない。お祭りに行っても、屋台がたくさん出ているわけでもないし、自分より年上の人たちが楽しんでいるのを見て怖くなり、最初のころは、参加しづらい感じがあった。「移住者」という言葉も気になる。

- ・「転入者」あるいは「移住者」という言葉遣いについては、あえて差別化しないと、新しく入ってきた人たちに対する施策におそらく繋がらない。新しく入ってきた人は具体的にどうするんだという個別の目標を立ててあげないといけないので、この部分はやはり、入ってきた人は入ってきた人だよという認識を持たないと、「新しく入ってきた人たちは、地域のことは自分で勉強してね」になってしまう。だから、そこを何かうまく教えてあげられるような感じだとよい。例えば、本当は地域オリエンテーションみたいなものが各地域であるとよい。自治体によっては、「〇〇市の暮らし方」みたいな冊子を配っていて、転入した時にそれを貰って読むと、色々なことが書いてある。

地域に新しく入ってきたら、やはりお祭りとかは中々仲間に入れない。しかし、「そこはこういう風に入るんだよ」ということを、入ってきた人の気持ちになって教えてあげられるような、共有できるようなことが必要だと感じる。やはり、新しく入ってきた人の気持ちを考えないといけないと思う。

地域・民間ができること

- ・自慢できる地域力とは何かということが具体的に何か示せない。自慢できるとなったらもう準備が整っているんじゃないかと思う。逆に、自慢できる地域力がないとなると、課題やデメリットが多いので、少しでも自慢できる部分があれば、「この地域には〇〇が揃っています」とか、準備できているところから少しでも発信できるようにした方がよいと思う。例えば、「ここには〇〇が揃っている」と分かれば、「その最低限のものがあるから住めるね」とか、そういったことができるんじゃないかなと思う。まずはできていることから発信すると良いと思う。情報は少しでも多い方がよいと思う。
- ・視点として、何かを高めるというスタートなので、どうしても、足りないものは何かなという視点になってしまうが、既にできていることを、意外と自分たちできているなど、ちゃんと認識するというのは大事である。逆に、できていないことだけを高めていかなきゃいけない、あるいは創っていかなきゃいけないと思う。

市民ができること

- ・基本的な施策の方向②の部分は、例えば地産地消で暮らしていくとか、物産展

とか、地域交流みたいな話になるが、それは地域の中だけでなく、外との繋がり
の地域交流も含めた話である。先日、フンチという蜘蛛の大会をやっていた
が、参加者は、本当に色々な所から来ていて、Tシャツまで作って参加するよ
うな会もある。そういうヒューマンアクティビティの話とか、環境整備でも何
でもいいが、そういう普段の生活の一つひとつが地域力、「ここに住んでてよか
ったな」という気持ちだと思うので、そういったことを整理していただけたら
と思う。

その他（体験談等）

・基本的な施策の方向②の内容は、基本目標3の内容と重複している箇所があ
るので、ここは整理した方がよい。基本目標2と基本目標3に書くことは、ダ
ブっているところがどうしても出てきてしまうので、自慢できる地域力の話は、
基本目標3に含まれるような住みやすいまちの話にするとか、一方、そうでは
なくて、基本目標2の方の、アクティビティの話にするとか、そこは整理して
ほしい。

（5）数値目標 富津市への愛着度（市民アンケート調査）

数値目標

- ・そもそも60%でいいのかという話だが、体感値がおそらく全然ないので、上か
下かなんて言っても、中々難しいと思う。「この基本目標の数値目標にはどん
な意味を持たせるんですか」という根本的な疑問があって、それがないと、数
値目標の設定の考え方に書いてあるように、70%は無理だから60%にしよう
となるが、それは考え方じゃないですよ、ということである。なので、設定の
仕方そのものに問題があるというか、この60%って何かという話は、富津市が
目指そうというところから持ってきて、数字の意味、裏付けを持たせないとい
けないと思う。そうじゃないと、何パーセントでもいいじゃないかという話に
なる。
- ・目標値の意味付けは、ベター論の話をするのではなく、マスト論的なことだ
と思う。それができないと成り立っていかない。
- ・一つのアイデアを申し上げると、人口の問題と移住者というのが大きな方針
としてあるというところに注目すると、人口4万人のところで人口動態の出入
りを見ていくと、移住者は結構いる。全体で言うと大体2,500人ぐらいは入っ
てくる。毎年2,500人というのは、人口を維持していく1つテーマの数なのか
なと思う。2,500人は4万人に対して6～7%ぐらいなので、それにプラスし
て、既に住んでいる人の中の底上げを数パーセント図るというようなことを考
えていく。移住者は意志をもって、あるいは仕事の関係でどうしてもここに来
る人たちなので、その人たちを離さないようにしようとしなければいけないと
思う。既に市内に住んでいる人たちが、気持ちを変えて途端に愛着を持ってい
くかという、それは中々難しいが、富津市に目を向けている人、あるいは新

しく来た人というのはすごく大事な人だと思うので、この部分をしっかり基本目標2の施策の中でやっていきたいと思いますというところを取ると、先ほどの6%という数字と、前からの市内在住者の若干の底上げという形をとると、60%という数字は、概ね間違いではないかなという裏付けになる。そのような形にすると、移住者というところのポイントを掲げて基本目標2をやっているかという話のベクトルに、おそらくは向くと思う。そういう意味付けを持たせないと、ベクトルが向かないので、要するに予算配分して終わってしまい、施策の軽重がつかない。限られた予算の中でやるはずなので、どこに軽重を持たせますかという方針を決めるのは、これだと思う。

令和6年度第2回富津市民委員会 グループ1 討議結果

1 開催日時等

開催日時	令和6年5月25日（土） 午後1時30分～3時40分
場 所	富津市役所本庁舎1階大会議室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標3
出席者	富津市民委員会委員5名 （コーディネーター）青木 和彦 （事務局）大野副主査

2 討議事項

総合戦略の基本目標3（くらしやすく、移住しやすい環境づくり）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

（1） 基本的な施策の方向① くらしやすい環境を整える

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・13年前富津市に来た時にカルチャーショックを感じたことがある。道路脇の歩道に、草が生い茂っていて、歩道なのかどうか分からないということに一番びっくりした。市内全てを完璧に管理してほしいとは言わないが、最低限幹線道路沿いは、もう少し整備されていた方が良く感じた。
- ・湊地区に住んでいるが、近くに公園っていうのがあるのかどうか実はわからない。海岸沿いの自然公園の他に児童公園の存在を知らない。
- ・課題に「公園が利用されていない」とあるが、抽象的で、公園というと、子どもが遊ぶ児童公園を連想するが、何を指しているかわからない。
- ・湊地区の私が住むエリアでは、小さい子供も見ないし、声も聞こえない。そんなところでは、ニーズ自体無いと思う。
- ・ここでいう公園は、富津の魅力を高めるという意味でも自然国立公園のような自然環境がある場所も含めた広義での公園と捉えた方が良く思う。
- ・富津地区では、児童公園で遊んでいる子どもがいる。
- ・市街地での街づくりのバランスを考えて開発を進めてほしい。
市街化を進めるだけではなく、富津の強みである自然環境を残すことも考えてほしい。
- ・市としてバランスを何対何ぐらいにしていきたいのかがはっきりすれば、課題が見えてくるのではないと思う。都市から移住してきた人は、魅力的な自然環境を残してほしいと考え、市内に住む若者は、自然を残すことよりも都市機

能の利便性を求めている。自然がありすぎても、都会に憧れをもって出て行ってしまう。各世代で求めているものが違う。

- ・空き家が多くあり、サルやシカが住み着いてしまっている。除草作業などは地域で行っているが、衛生面の問題もあり、地域だけでは、できることの限界がある。
- ・若い人はボランティアや地域の活動に興味が無い人も多くいる。例えば、地域の活動やごみ掃除に参加することで、地元のお店で使えるエコポイントのようなものがもらえとか、地域通貨を利用するなどすれば、地域が活性化していくと思う。
- ・課題にある「公共交通が利用しにくい」や「公園が利用されていない」というのは、市内のどこのことを言っているのか、何が利用されていないのかが分からない。表現の仕方をもう少し細分化した方が良いと思う。
- ・基本的な施策の方向①として、「すべての世代が満足できる、自然環境と都市機能のバランスを活かした暮らしやすい環境を整える」
- ・課題に、「自然環境と都市機能のバランスを考えた街づくり」を進めることを記載してほしい。

地域・民間ができること

- ・都内の学生マンションでは、地域の活動に決まった回数参加することを入居条件にして、その代わりに近隣の家賃相場よりすごく安いという仕組みを作っているところがあるので参考になるのではないかなと思う。そうすることで、若い人も積極的に地域の活動に参加している。

市民ができること

- ・市民ができることの中に、「車を出すボランティアと利用したい方のマッチング」とあるが、交通事故やトラブルが想定されるので、すべてボランティアに任せるのは危険だと思う。

(2) 基本的な施策の方向② 移住しやすい環境を整える

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・歩道の草刈りや消防団等地域の活動に関して、移住した先輩などから聞けるような機会があるとよい。
- ・移住を考えた際、一番の情報源は不動産屋だった。
- ・近所の組とか班とか区に仲間に入れてくれと挨拶に行ったが、半年くらい返事が来なかったので、不信感を感じた。
- ・受け入れ態勢不十分という課題は、誰に何を聞いたらいいのかを具体的に示してもらえると安心すると思う。
- ・南の方の地域に行くと地域おこし協力隊の人たちが中心になって移住関係で活動している。
- ・以前、移住者側の先輩として、移住者交流会に参加したことがあるが、貴重な機会であった。
- ・交通であれば、例えば、バスをアプリで予約するなどできたらよいと思う。
- ・ホームページで探すのが面倒くさいとあきらめてしまう。移住者が「ココを見れば全てがわかる」ページがあるとよいと思う。
- ・転入者の受け入れ体制はホームページの弱さだと感じた。居住しやすいのか、どんな生活環境なのか、買い物はどこが便利なのかなど、見やすくする。
- ・皆さんが経験されて、見つけにくい、敷居が高い、ハードルが高いという話を、気づいてないまま作成したホームページなのかと感じた。
- ・住まいの部分で、高齢者が欲しいのか、若者が欲しいのか、子育て世代がほしいのか、どこから引き寄せようとする土台のコンテンツ作りがずれていると感じた。
- ・公園も活用状況を見ているのか。30、40年前からある公園を子どもがいない中、今後どうするのか。公園の目的の整理と、人を呼ぶための公園とするなら、そこへ行くための移動手段についても考えないといけない。
- ・対象者とする移住者の年齢や家族構成によって、求める情報が違ってくるので、それに応じて情報を整理できるとよい。利用者目線、移住者目線で作っていくことが必要だと思う。
- ・移住者間のコミュニケーションという視点は、移住前も移住後も必要。これをどう整備していくのかという部分で、地域おこし協力隊が他の地域ではよくやっていたりする。
- ・移住してきた人が当事者としてそういうのをやるのが大事。コンシェルジュと組んで作り上げていくと良いと思う。
- ・ただし、そういった活動にはある程度のインセンティブが必要になる。
- ・地域おこし協力隊だとハードルが高いので、移住者も協力しやすいようにしてあげるなど、参加しやすい仕組みを作れるとよい。
- ・受け入れ体制が不十分なところは、この課題をもう少し細かく書く必要がある。
- ・地域内での仕事は多くない。ただし、都内に仕事を持ったまま移住してくる人

もけっこういる。

- ・リモートの環境をある程度自分で作れる人はいいが、ワーケーションなど、地域で空いている空き家とか市の設備とかを使ってリモートできるコワーキングスペースやシェアオフィスができるとよい。
- ・そこは単なる作業をする場だけでなく、交流する場にもなる。
- ・コワーキングと移住者の交流をセットにすると、自然とそこに移住者コミュニティが生まれると思う。
- ・都内からのアクセスの良さはある程度担保できていると思う。
- ・リモートで仕事ができやすい人の方が移住しやすいはずなので、そういう人たちにもう少し支援をするのはどうか。
- ・仕事を持っている人がそれを抱えながら移住できる環境、又はこちらでできる仕事、不動産が整っていることが移住には必要だと思う。
- ・湾口道路ができると仕事、生活面でよくなる。
- ・自分の家の周囲が空き家だらけで、空き地、空き家の有効活用を現実のこととしてなかなか自分でイメージできない。
- ・空き家の整備にもお金はかかる。所有者は高齢者が多いのかもしれないので、そもそもインターネットを使えるのかわからないが、整備に係る制度や情報をわかりやすく提供する必要がある。
- ・移住という言葉だと県外からの転入のイメージがある。U ターン等も含めるのであれば、そのニュアンスも感じられるとよいと思う。
- ・都会へ出ていった人に対して、都会の便利さは享受したいけど、でもやっぱり田舎の自然環境の良さっていうのを改めて感じたときに、地元に戻りやすい環境という側面も必要だと思う。
- ・2 拠点居住等の完全に移住しなくても、関係している人が増えるというのは、下地作りとして大きいと思うし、まして住民間のコミュニケーション交流が不足しているところにも影響してくると思う
- ・本当は定住を促進したい項目だと思うが、実現するためにはステップも必要で、関係人口はそのステップの一つだと思う。

地域・民間ができること

- ・班長が最初の声掛けをして、話すきっかけをつくとあるが、人にもよると思う。なかなか言い出せない人もいる。
- ・個人的な話ではあるが、私が地域にどういうふうに入ったかというと Facebook だった。たまたま、Facebook で田舎暮らしとか南房総というキーワードで見たら、NPO を見つけて、そこでワークショップを始めるっていうときに、行ったのがこちらの人脈作りのきっかけだった。
- ・ネットワークづくりは民間や NPO などで行う方が必要なことをできると思う。
- ・転入者に情報提供するのは大事。地域の活動に関しても、どの地域が対象になっているのか、活動内容やお金の使われ方がわからないから情報は欲しい。
- ・転入者に情報を提供できるように、地域の活動をまとめておく必要がある。

市民ができること

- ・移住者間のコミュニケーションの場を整備する。

(5) 数値目標 『これからも富津市に住みたい』の割合(市民アンケート調査)

数値目標

- ・数値目標の「これからも富津市に住みたい」の割合だと、施策の方向①の目標としては良いが、施策の方向②「移住しやすい環境を整える」は、これから移住して来る人への施策なので、目標が少し違うと思う。
- ・例えば「これからも富津市に住みたい、富津市に住んでみたいと思う割合」はどうだろうか。
- ・数値目標としては、このままで良いと思う。
- ・市民にとって、数値目標の数は、いくつでもいい数だと思う。その内容の方が大切である。
- ・数値目標を「富津市から転出した割合」はどうか。

令和6年度第2回富津市民委員会 グループ2 討議結果

1 開催日時等

開催日時	令和6年5月25日（土） 午後1時30分～3時40分
場 所	富津市役所本庁舎2階第1委員会室
討議事項	富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標4
出席者	富津市民委員会委員 8名 （コーディネーター）岡田 亮介 （事務局）若松副主査

2 討議事項

総合戦略の基本目標4（市の産業、仕事を創る）に記載している次の事項について、討議を実施。

- （1） 基本的な施策の方向
- （2） 課題
- （3） 地域・民間ができること
- （4） 市民ができること
- （5） 数値目標

3 討議内容（要旨）

（1） 基本的な施策の方向① 働く“場”をつくる

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・既存産業、創業、企業誘致と並べて書かれているが、施策としてのベクトルが見えない。重点配分の意味を明確にしないと変化が起きないのではないかと。特に、既存産業の振興については、施策の方向②との関係が不明確である。施策の方向①と施策の方向②を総合的に再整理する必要があると考える。例えば、既存産業と誘致・創業の二つに再整理するのも一案かと思う。
- ・工場や商店を作らないと産業が創れないかというところでもない。基本はワーキングスペースを整えば、いろいろな仕事につながるが、コロナ禍の事情でわかってきた。こうした場の提供も産業創設のアプローチになると考える。働いてもらう場所を提供するということである。仕事でなくても、趣味の場を提供するのも可能性がある。私の知人には、週末に郊外で農耕を楽しんでいる方々がいる。畑を貸すとかキャンプ用地を貸す等も、市民と一緒に考えていく方向性の一つであると思う。
- ・雇用の受け皿不足、女性の働く場の環境が表記されているが、本当だろうか。何をもってこれらが課題なのかがわからない。もしかしたら、就職希望者と求人に関するデータがあるのかと思うが、それを分析してどこに不整合があるのか、課題を明確化することが第一歩と考える。
- ・空き店舗にお店を導入するのはどうか。

- ・50歳を超えると、求人は本当はない。ただ、都内に行くとまだまだある。やはりこちらは働くところが圧倒的に少ないんだなという印象である。だから、何かいろいろやってみたいなと思ったときに東京に行ってみようかなと思った。

ただ、ここにある課題で、女性の働く環境が整っていないことはわかるが、女性に限ったことではないと思う。

- ・副業というのは、今増えてきている。そういうのがあれば、若い人も都会に行かずに、働ける場所があればと思うんだろうなと思う。
- ・既存産業、創業支援、企業誘致、この3つに優先順位をあえてつけるとすると、私はまず既存産業に目を向けて、他の2つは一步進んでからだと思う。
- ・「場」という言葉がピンと来てない。雇用そのものなのか、文字どおりの場所という意味で使っているのかがわからない。ただ、後者で考えたときには、大きく二つあると思っていて、その一つは、市内に住み地元で働いてる人で、もう一つは、私みたいに市内に住んでいるものの市外で働いている人である。また、後者については、リモートワークというのがキーワードとなり、デジタルというキーワードで、今ワーケーションというのは結構ある。県内で調べると、勝浦市ですごく流行っていて、ワーケーションの場をだいぶ出しているという状況がある。私の知り合いにも、リモートで仕事をする事で、サーフィン目的で勝浦に移ったメンバーもいて、そのような場を提供することはできないのかなと考える。

また、前回の話の中で、空き家の話とかも結構あったので、そういうのをうまく利用して、ワーケーションとしての場を提供するというのもありかなと考えた。

- ・課題の中で女性って限定するのは、逆に違和感である。若い人たちの働く場所が欲しい。昔から女性の地位向上みたいなのがあったとは思いますが、だいぶ改善しているようなイメージがある。
- ・ある程度の年なってくると、就職で一回東京に出ていても、親のことも頭をよぎり、そろそろ地元に戻りたいなという気持ちも出てくる。でも、戻りたいなと思えるような時に帰郷した先に仕事がないと、結局戻れないということはあるかもしれない。
- ・富津市は、はっきり言って魅力がない。仕事終わりにどこかに寄って買い物したり、何もできない。はっきり言うと、ただ生きるためだけに働くことしかできない。なので、駄目なのかなと思う。働く場があったところで、いかに良い雇用条件を出したところで、やはり仕事以外の生活を重要視する人が多いからどうしようもないと思う。自分の世代だと、お店がないとまず駄目である。住んでいる地域だとコンビニもほとんどない。富津地区であっても、某大型スーパーは場所が悪いのではないかと感じる。もっと幹線道路、国道127号線沿いなどにお店があればお客さんも増えるであろうが、街のつくりが悪いのかなと思う。

- ・私の住んでいる地域や周辺地域も、商店がどんどんなくなっている状態である。それはそこに住む人もいなくなってしまうことにつながる。
- ・働く場に加え、生活する上での周りの環境も大事である。
- ・周りの環境の方が大事だと思う。
- ・若い人の働く場が増えなければダメかという点でいえば、シルバー、お年寄りの方が大事なのではないか。お年寄りの方が絶対数が多いし、まずはそこを大事にしてから、若い人に。
- ・課題には、女性の働く環境が整っていないとあるが、女性だって働きたい人は働くと思う。だから別に、女性だけに限定するのではなく、対象は全員にした方がいいのかなと思う。
- ・富津市の中でもすごい地域格差があるから、地元のお店にお金を落とすことの問題は、一方向から見ても解決のアイディアは出てこない。天羽地区に住んでいる人にとっては、市内といたら天羽地区のこと。だから、全体の大きな問題を考えるときにも、やっぱりそういう地域格差ということを念頭に置いておかないと、本当の解決策というのは見えてこない。今回の市民委員会の委員の中にも、富津地区にお住まいの方がおられますが、自分たちを取り巻く環境が全く違うと思う。
地域の店がなくなったら、もう働く場所とかの問題じゃなく、日常生活がままならない状態になるから、働く場所と日常生活を維持するための店の確保、これらは全て一緒の問題だと思う。
- ・上総湊駅等で、駅からハイキングというイベントをやっているが、何か市とタイアップしたり、来た方が楽しんでお金を落としてもらえるような仕組みが何かできるといいんじゃないかなと思う。

地域・民間ができること

- ・現在、地域・民間レベルでどのような取組がなされているか、市は把握しているのか。各所で様々な組織体あるいは個人が活動をしていることを耳にする。これらを調査し、リストアップすることにより、行政の取組に具体化できる行動指針が得られるのではないかなと思う。
- ・空き店舗が増えている理由を見つけることが課題である。市民の要望を踏まえて、空き店舗に新しいお店を導入してもらえるように交渉する。それによって雇用が生まれる。
- ・経営者としては、地元に住んでいる人を雇用したいものである。
- ・施策の方向に関する討議を踏まえると、高齢者の雇用、地元の人の雇用、若い人の雇用、結局全部ということになるが、それは反論の余地がない。
- ・雇用に関しては、世代で分かれるのかなと考えた。言い方は悪いかもしれないが、今の高齢者世代とか我々ぐらいの世代だと、残業してでも頑張ろうという姿勢や意識がある。一方、今の若い人は、仕事に対する姿勢が違い、ワーク・ライフ・バランスを重視する傾向がある。それを考えた時、雇う側がこのワー

ク・ライフ・バランスを意識した雇用の状態になっているかというところも、ポイントになるのではと考えた。 ・店舗による対面販売だけでなく、インターネットを使った通販みたいな商売であれば、わざわざ店舗に行かなくてもよいので、それを広げていけるような取り組みをしていくとよい。それが雇用や仕事に広がっていくと思う。 ・地元の観光協会の人たちやＪＲに頼るだけでなく、イベントの機会をうまく使うと点と点の観光が線で結ばれ、リピートに繋がると思う。 ・何か新たなことではなく、既存のことであっても丁寧にやることによって、お金を落としてもらえて、雇用に繋がっていくのかなと思う。
市民ができること ・市民がもっと市内産業に目を向けることが大切だと思う。過日実施されたふっつんＰＡＹの事業があったが、利用先を市内に限定されているため、逆にこのメリットを市内のどこの店で使おうかという気持ちになり、リストにある今まで足を運んだことのない店を訪れることが多々あった。働く場を創る一方で、市民が客となるような施策は大事だと思う。 ・空き店舗に新しく入ったお店を使う。 ・市内には美味しいお店とかもたくさんあるので、市内にお金を落とすというか、やはりできる限り地元のお店を応援する気持ちがないと、地場産業というか、お店がなかなか続けていけないのかなと思う。観光で来た人たちがお金を落とすというのももちろんあるが、飲食店とか観光系のお店は、シーズン以外の時期をどう乗り切るかが大変なのかなと思う。 ・富津市は広く、富津地区とか大佐和地区とかは、富津イオン等のお店に比較的すぐに行ける。ところが天羽地区は、富津地区と大佐和地区を含めた倍ぐらいの面積がある上、人口も少ない。そういう所で、地元にお金を落とそうと思っても、地元に商店がなくなっている。ただ、現実的には、買い物をする人は、大型スーパーに行ってしまう。その点は、地元の人間の意識の持ち方を若干変えていかないといけないことだと思う。 ・現総合戦略では、地元企業等の地元で働く場所について調べてみるとあるが、民間が働く場を維持して作っていくという形に対して、市民は、そもそも調べる前に使ってお金を落としていかないといけない。そうでないと、地元企業が減っていく。使っていくことで、店舗が増えたり、それにより雇用が生まれるのだから、まずは使おうということである。
その他（体験談等） ・事業をやっている立場から言わせてもらおうと、求人を出しているのに全然来ない。たまに来ても、君津とか鋸南とか南房総とかからで悲しく感じる。時給をちょっとずつ上げて来ない。 ・私は他の市で事業をやっているが、今年の春に事務の人を１人募集したら、２

日くらいで十何人の募集が来た。ただ、地元で募集紙を出しても全然来ず、東京の会社に頼んだらたくさんの応募が来た。応募してきた方に話を聞くと、皆さん働くところがないとのことだった。

- ・企業への支援という点でいえば、コロナの際は、南房総市は手厚かった。商工会から補助金とか、売上が何パーセント下がったら出しますよというのがあったが、富津市はそれがなかった。そういうところも、企業が出ていってしまう原因になるのかなと思う。
- ・若い都内の人たちは、現在ほとんど現金を持たない人も多い。せっかく富津市に遊びに来て、こっちは現金がないと買い物できない所が多いよということが知れ渡っていなければ、いざ買おうとしたときに使えず、お金を落とすともう機会を逃してしまう。
- ・よく昔は北主南従といって、千葉だとか船橋だとか松戸だとか、千葉県の北部が主で、南房総のような千葉県の南は従とされたが、それが今は縮小されて、富津市の中で北主南従の状況が生じている。そこら辺は私達にも責任があるかもしれないが、行政と一体になって、北にある主力を、天羽地区のような南にももう少し向けてほしい。富津市は面積も広いし、行政が手を出すのはなかなか大変かとは思いますがお願いしたい
- ・駅からハイキングについて言えば、JRさんとタイアップして、三柱神社に歩いて来た方に、採れた米を2合ずつ袋に入れて、お土産として、「地元産コシヒカリです」とことで出してあげている。そうしたら、前の年に渡した人が翌年また来て、「美味しかったです。どのお米ですか？」と言ってきて、「地元の米ですよ」なんてやり取りがあったり、PRして何か力になれば良いなという思いで行っている。

(2) 基本的な施策の方向② 地域の特色ある産業を盛んにする

基本的な施策の方向、課題（市への意見を含む）

- ・既存の市内産業に関わる事業は、これまで施策として様々な面から継続されていることと思うので、誘致・創業についての方向性を見出す必要があると思う。富津市みらい構想の一つの方向性は、「移住」であるので、これにリンクした産業を整理することは、行政の一貫性から必須事項と考える。

知人がいるのだが、パソナが淡路島に移転した例は興味深い参考事例が多々あった。また、日本人とは感性の異なる外国人は、意外と富津市を好きな方々がいる。例えば、かつてのスイス大使館員には、鋸山からの風景が日本一好きだという方がいた。有名な都市・観光地とは違った「日本」を見に来たい、体験したいという外国人のニーズはあると思う。外国人は、既存の思い込みなく話を聞いてくれるから、市内の国際交流をしているところから広げていくのも一案である。

また、房総半島を自転車や自動二輪で楽しみながら走る人はかなりいる。自

動二輪はともかく、自転車等は、コースを整備してやれば、市にとって誘致・導入できる手段として有効性があると思う。国道127号線がやや狭隘で自転車には危ないということもあるが、迂回して楽しめるコースは作れると思う。

- ・海産物の豊富さを維持する。そのために、海をきれいに保つこと及び商品の物価高騰を抑えることが課題である。
- ・富津の名産物、牡蠣とかあさりとか海のスポーツ、小さなお店とかも、頑張っているお年寄りもいるのに、情報発信が乏しくてなかなか結びつかない。だから、各会社やグループなどにデジタル担当者みたいなものを置いたらよいと思う。縁の下の力持ちの高齢者はまだまだ若いので、若い人を繋ぎ、県をまたいで他に発信するというのは、若い人の役目だと思う。いっぱい熱い気持ちがあるのに、デジタルでまとめることをしない。本来はそこで人を集められると思う。自分の会社の動画を撮っても、そこで働いている人はネットなりにアップすることができない、魅力をネットにアップできないため全国に知らせることができない。だから、まず担当者を作る。また、その人材の育成というか教育が必要だと考える。小さな会社でもお店でも、1人でもそういう人材がいないと駄目なんだと思う。
- ・課題にも出てくるが、地場産業自体が今、高齢化していて後継者がいない。もっとも、その問題は、例えば商工会や観光協会でも同じことが起きていて、活性化を図るといっても、その先が見えてこない。

市外に限らず、県外、海外でもいいが、例えば耕作放棄地の活用をしてくれる何かをアピールしてもらえ、あるいは支援してもらえ団体だとかを誘致できればよいと思う。市内の人で頑張ってくれと言っても限界があると思うので、そういった市外の団体だったり企業だったりに手助けしてもらおうというアピールもできたらいいと思う。

- ・課題の話になるが、まず一つ目、農業を始めるに当たり、兼業農家や家庭菜園といった、片手間でやってみたいという要望があると思うが、そういった簡単な入口から入ってもいいのかという不安がある。また、農家をやるにしても、農機具のレンタル方法がわからない等、スタートアップのフォローが足りないような印象を受けた。

二つ目、特産物の云々について、観光地を整備して、案内係や地元産の販売等の職を用意できないかという印象がある。具体的には道の駅で農産物や海産物の即売会、即売所等の方法があるのではないかと考える。また、観光客相手であれば、彼らは体験を買いに来ているという側面もあると思われるので、芋掘りや海苔等の、その時期に合わせた体験、農業体験や漁業体験といったものがあれば、集客にも寄与するのではないかと思う。

三つ目、PRの話。前回の市民委員会でも伝えた通り、富津市のSNSは更新頻度が低く、また、イベントの事後報告が多く、デジタルを活用しているとは考えにくいと思った。現状、広報ふつつとといった冊子での案内はできている

ことから、これらを活用し、市内の四季折々の見どころや絶景を写真付きで頻繁に紹介する、また市内のSNSを利用して、広報ふつつに記載されているイベントや講座の発信等にも活用することで、市内外への情報発信ができるのではないかと、いったところでも可能性があると思われる。

- ・基本的な施策の方向②の中に、耕作放棄地の活用というものがあるが、課題にも書かれているように、各地区の担い手が高齢化していて、2、3年したら作れなくなってしまう。その際、土地を返還したとしても、返された側の人たちは農機具もない。農地はただひたすら荒れていってしまう状況で、富津の中でなかなか担い手をやる人も多分これから先は出てこない。

そのような中で、荒れた田んぼや畑をどうするのか、この点については、貸し農園等が考えられるが、一旦荒れてしまうとできなくなる。農業体験をやるのであれば、ノウハウは地元にいっぱいあるから、一緒にできるかなと思う。

荒れる農地をどうするのかというのは、喫緊の問題かと思う。漁業に関しても同じである。地場産業を増やさないと、そこに就業する人がいなくなってしまう。

- ・富津市のホームページを開いたら市内の求人情報等あらゆる情報にリンクしていて、市のホームページを見れば全てのことが分かる、そんなことが実現できればよいと思う。
- ・デジタル系に強い人たちが会議をすると、私達みたいによくわからない人が気持ちだけを伝えてもなかなか形にならないので、何かそういう組織を市の方で早くに集約してもらって、どういうふうにやっていけば情報発信が広がっていくかということを話し合い、ホームページを充実させてほしい。

地域・民間ができること

- ・誘致を含め、市外における活動を広めてはと思う。古民家のような移住先を求めている方もいるし、この自然を活かしたいという方もいる。
- ・海を清掃し、企業からの助成金等により商品の物価高騰を抑える。
- ・農業者個人、漁業者個人は、なかなかデジタルになじまない。そういうときに、農協さんや漁組さんの販売でネット通販のような方法をとって、地盤産品をPRする。ふるさと納税の返礼品に若干あるかもしれないが、補強するところがあるかもしれない。ネット販売は、農協さんや漁組さんにうまく話をするによって、生産者の手助けになり、それが地場産業の手助けになるかもしれない。
- ・地元の人も意外と知らないなので、東大むら塾について、もう少し何かPRする必要があると思う。
- ・デジタル関係のことについて、今回の市民委員会のように、それぞれ漁業とか農業とか、ある程度先頭に立ってやっているような人たちが集まって、「こういうやり方をすると、もっと宣伝になって広がるよ」というのを検討するとよい。

市民ができること

- ・観光ボランティアや道案内等、可能なことはあると思う。私自身、時間がとれば、外国人ツアーガイド等もしたいと考えている。
- ・海産物の安定した普及が続くよう、商品を購入する。
- ・黄金アジのアジフライとか竹岡ラーメンとか、農業や漁業に限らず、何か一つ目玉となるものを皆で作れば、地域全体に波及効果があると思う。
- ・国道127号線を南に下る際、海が真っ青できれいと思いながら運転するが、一つ残念なのが、道路脇の草が枯れていて、車の中から写真を撮った時にそれが写り込んでしまう。それは観光を盛り上げるうえですごくもったいない。その草を誰が刈るかということについてであるが、例えば、観光ボランティアのような形で、市民ができることとして、海も町もメイン道路みたいな所は皆で力を合わせてきれいにしませんかという活動を、ハッシュタグをつけて募集してはどうかと思う。

その他（体験談等）

- ・テレビのスタッフさんがどうやって最新の情報を調べているのかについては、結局インスタのハッシュタグで見つけて、若いADさんが調べて偉い人に「こういう企画はどうですかね」と提案するようだ。そこにハッシュタグをつけるかつかないかで、テレビのプロデューサーさんの目に留まるかどうかが決まり、テレビに出たらもう大行列になる。本当にちょっとしたことで変わっていく。どこで何が当たるかわからないので、とりあえず弾はいっぱい撃たなきゃいけないと思う。

（４）数値目標 働く場所の創出への満足度（市民アンケート調査）

数値目標

- ・前回の市民委員会でも申し上げたが、数字には意味を持たせるべきだと思う。目標数値としている「働く場所の創出への満足度」であるが、どのような年齢層の方がどのくらいの回答をしているのか。既に職業に就いている人、これから職を探す人、人生のステージ、時期における就労への期待度も様々である。経済、産業に関わる目標であるから、アンケートではない数値を目標にした方が意味があると思う。
- ・他の基本目標１、２、３の数値目標を見ていくと、基本目標４より高い。これらの数値目標は相互に関連しているわけではないが、イメージとして、皆さんがここ富津市に住んだり、あるいは移住してくる一つの目安になると思う。
- ・目標値について、近隣市と比べて何がわかるのか、高いのか低いのかかわからないので、これに関して議論を深めるのは難しいが、同じような項目だと近隣市はどうだろうというのが気になる。
- ・25%に到達したから良いというわけではなく、高ければ高いほど良いと思う

が、現状からすると、このぐらいまでの数値を最低限目指さないという意味がないよねという意味では、これ位かなという気もする。

参考資料

委員名簿・コーディネーター名簿.....	40
----------------------	----

○委員名簿（お名前の公表に同意いただいた方のみ掲載しています。）

グループ 1	グループ 2
今 関 昊 汰	福 原 崇 文
塩 井 和 希	稲 村 和 裕
鈴 木 隆 司	穂 積 智 之
荒 井 謙	渡 邊 明 徳
大 塚 貴 之	榎 本 淳 子
森 山 正 章	林 美 保 子
工 藤 寛 子	田 中 重 伸
中 山 美 穂	能 城 一 哉
藤 本 裕 子	三 木 綾 子
鈴 木 初 子	荒 井 須 美 夫
菅 原 祐 二	他 7 名
神 子 恵 子	

○コーディネーター名簿

グループ 1	グループ 2
富津市創生会議委員 青木 和彦	富津市創生会議委員 岡田 亮介

令和6年度富津市民委員会報告書

発行年月 2024年9月

発 行 富津市

〒293-8506 富津市下飯野2443番地

Tel 0439-80-1223

ホームページアドレス

<https://www.city.futtsu.lg.jp/>

Eメールアドレス

info@city.futtsu.chiba.jp

編 集 富津市企画政策部企画課